

新山 勝久 議員

(一括質問方式)



- ①防災
- ②道路（路側帯）の土の除去
- ③県立学校再編

防災について

問 夜間安全に避難するために学校施設の避難所には照明設備が必要と思うが、整備状況は。

答 現在、市内の小・中学校及び高校のグラウンド23施設中17施設が、社会体育や部活動等での利用を目的として夜間照明を整備しているため、災害の際にはこれらの有効活用も考えられますが、南海トラフ等の震災時など大規模停電が発生した場合には、夜間照明が使用できないことも十分想定されます。

そのため、現在は、地域の自主防災組織において、どこでも使える自由度の高い投光器や発電機等の整備を進め、令和3年度には本市と市内のレンタル資材会社で災害協定を締結し、LEDバルーン投光器などの照明機器の迅速な確保体制も整えています。

このようなことから、学校グラウンドへの防災を目的とした常設の夜間照明の整備は計画していませんが、今後の既存施設の改修等の際には、応急的に照明を点灯させるために必要な施設整備などを検討していきたいと考えています。

道路（路側帯）の土の除去について

問 安全性向上のために路側帯の草刈りや溜まった腐葉土の除去が有効と考えるがいかがか。

答 国管理の国道56号は6月から9月にかけて、県管理の3桁国道及び県道は7月から8月にかけて、それぞれ年1回の除草作業を実施しています。また、市道については、交通量の多い主要幹線道路は、5月から11月にかけて年1～2回程度除草作業を行っており、主要幹線道路以外の生活道路である市道は、市が交付する道路環境整備交付金により各自治会が除草作業を行っています。

歩行者の歩きやすい、自転車が走りやすい道路環境維持のためには、草刈り作業と併せて腐葉土等の

除去が有効です。利用者の状況や路面の腐葉土の状態を確認し、道路環境の向上に努めます。

県立学校再編について

問 県立学校振興計画案に対しては、反対の声も上がっているが、市としての考えは。

答 計画案については、大洲農業高校が大洲高校へ統合される計画案に対して大洲農業高等学校存続を求める会が発足し、地区内の各所で署名活動をされました。10月には1万6,000筆を超える署名が集まり、県教委に提出するとの報告がありました。請願趣旨には、これまで大洲農業高校が果たしてきた役割、同校がこの地域にとっていかに重要で、愛されているかを示す内容が書かれており、皆さまの情熱と行動力を認識したところです。

本市の基幹産業である農業の発展や担い手の確保・育成は、将来にわたって成長する大きな原動力となるもので、これまで取り組まれてきた農業教育の役割は大変大きなものと考えています。

一方、肱川分校を対象とする計画では、令和8年に設置される仮称、愛媛風早高校に統合する案ですが、同校では、不登校を経験した生徒や自分のペースで学びたい生徒としっかり向き合う少人数教育に取り組まれています。肱川分校が担ってきた役割や、この圏域の通学圏内にどう残していくかも検討する必要があると考えています。

県教委が振興計画案の策定に至った背景には、我々の想像を超えて進行する生徒数の激しい減少があります。教育環境を大局的な観点から考えて、生徒にとってよりよいものにしたいという考えも背景にうかがえます。

しかしながら、各高校は社会を支える人材の育成拠点であるとともに、地域活性化の核としての役割も担っています。令和5年1月に確定したいとの案ですが、計画策定にはもう少し時間をかけて地域の声をじっくりと広く聞いていただきたいと思います。

私たち地域住民も少子化の状況やその背景を真剣に検証し、今後どう地域づくりに取り組むべきか、地域の高校教育はどうあるべきかの意見を集約したうえで、県教委と協議させていただく時間をつくるよう求めていくことが必要だと考えています。